

牛久の偉人図鑑 ④

牛久の歴史や文化の発展に功績を残した偉人をご紹介します

問 広報広聴課
☎内線3221、3222



イラスト・金井

牛久藩の祖

初代 ^{やまぐち しげまさ} 山口 重政

重政は、はじめ織田信長の家臣である佐久間正勝に仕え、天正12年(1584)の小牧・長久手の戦いでは織田・徳川連合軍として大野城を守りました。その後、織田信雄や徳川秀忠(のちの江戸幕府2代目将軍)の家臣となったのち、武蔵国などに所領を賜りますが、大久保忠隣失脚に巻き込まれ所領を没収されてしまいました。高野山での閉居等を経て赦され、寛永6年(1629)、牛久を含む常陸国に領地を賜り復歸しました。

The Yamaguchi Clan

牛久藩主 山口家

基本データ

【藩歴】寛永6年(1629)
～明治4年(1871)
【陣屋】常陸国河内郡城中村
(現:牛久市城中町)

山口家の家紋は“山口菱”と呼ばれる唐菱で、裏紋が“山口笹”(竹の丸に飛雀二羽)でした。山口菱は、“大内菱”と形が類似しており、藩祖である山口重政が、大名として名を馳せた大内氏を祖先としていることから考えられます。

こぼれ話

12代240年に
渡って牛久藩を
統治した譜代大名

イラスト:
nino marona

イラスト:
みりんねこ

イラスト:
藤

イラスト:R

イラスト:こめこ

イラスト:いちご

イラスト:ゆゆ

イラスト:YN

藩史関連系譜図

(初代)山口重政

- ・寛永6年
牛久に領地を拝領

(二代)山口弘隆

- ・寛永12年
家督相続
- ・寛文9年
牛久陣屋を築く

(三代)山口重定(重貞)

- ・延宝5年
藩主となる

(十二代)山口弘達

- ・文久2年
藩主となる
- ・明治4年
廃藩置県により、
牛久藩消滅

山口家は三代目将軍・徳川家光に取り立てられた徳川将軍家譜代の大名でした。江戸を拠点に、譜代大名として将軍から命じられた日常的な番役(江戸城の警護役など)に従事していたほか、大坂城の警護など遠隔地での番役を課される機会が多くありました。なかでも、二代目・弘隆は水口城番(近江国(現・滋賀県)での番役)を16年と、異例の長さで務めました。

「山口家」って知ってる? 牛久藩の略歴 山口家は安土桃山時代から江戸時代にかけての武家・大名家で、寛永6年(1629)から明治4年(1871)まで、約240年にわたり、牛久を治めました。藩祖である山口重政が拝領した領地を、四男として生まれた弘隆が寛永12年(1635)に家督を相続。寛文9年(1669)、常陸国と近縁の所領の行政拠点として牛久(城中村)に陣屋を築き、藩主の居所として定められました。そのため、実質的な初代藩主は弘隆ともいわれています。その後、明治4年(1871)に行われた廃藩置県により、牛久藩は消滅しました。最後の牛久藩主・弘達はその後、学習院教授や貴族院議員等を務めました。

山口家と牛久の繋がりが

ゆかりの
スポット

牛久陣屋跡地

(牛久市城中町 河童の碑近く)



旧牛久城外郭内の西端に設けられた陣屋の跡地です。現在は、建物等は残っておらず、開けた野原を残すのみとなっています。

も紹介されました。



「山口重政肖像画」

重政が出家して高野山にいたころの姿と考えられ、近世期の牛久の歴史を知る上で重要な資料です。

「軍陣備之画図」

(江戸時代前期～中期) 鎧や弓、鉄砲を持った227人の武士や騎馬兵等が描かれた絵図。当時の牛久藩の軍備が分かる貴重な資料です。



【イラスト制作】
下根中学校美術部
【参考文献】
特別展「牛久藩主とその時代(牛久市教育委員会発行)、牛久市史・近世(牛久市発行)

その後は、
次第に牛久に
定着していきます